

## 主の復活の夜のための個人や少人数での祈りのしおり

〔土曜日〕の日没で四旬節は終了します。...その土曜日の夜半（従来は深夜）から主の復活を祝う日として位置付けられています。...洗礼式を行い、また洗礼を想起することが伝統的にふさわしい礼拝です。

（式文ハンドブック 20 ページ）

\*日没後に祈ることが望ましいが、日中に祈ってもよい。

\*個人で祈るときは会衆の部分も自分で唱えるが、キリエは会衆の部分は唱えない。

\*主の祈りは新式文から抜粋・引用。

### 1. み名による祝福

司) 父と子と聖霊のみ名によって

会) アーメン。

### 2. キリエ

司) 主よ、憐れんでください。

会) 主よ、憐れんでください。

司) キリストよ、憐れんでください。

会) キリストよ、憐れんでください。

司) 主よ、憐れんでください。

会) 主よ、憐れんでください。

### 3. その日の祈り

全) 神様。あなたは世界の創り主、人類の解放者、この世の知恵です。御子の復活によって私たちを恐れから解放し、あなたに似せて創られた姿を取り戻し、御光によって照らしてください。あなたと聖霊とともにただ独りの神、永遠の支配者、御子、主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

### 4. 旧約聖書の朗読と応答の祈り

（次5つの聖書箇所から一つを選んでよい。応答として対応する祈りを祈る）

①創世記 1:1-2:4a

祈祷

全能の神様。あなたは驚くべきみ業により、私たちをあなたに似せて造り、さらに驚くべきみ業により、キリストによって贖ってくださいました。み子が私たちと同じ人間となられたように、私たちをキリストの新しい命に生きる者としてください。主イエス・キリストによって。アーメン

②創世記 7:1-5 & 11-18; & 8:6-18; & 9:8-13

祈祷

慈しみ深い神様。あなたは虹を雲の中に置き、すべての生けるものとあなたとの契約のしるしとしてくださいました。水と霊によって新しい命に生かされる私たちも、あなたの契約の民として、この世に証を立てることができるように導いてください。主イエス・キリストによって。アーメン

③出エジプト 14:10-31; & 15:20-21

祈祷

私たちの贖い主である神様。あなたは民の叫びを聞き、モーセを遣わして奴隸の家から、選ばれた民を、葦の海の水を通ることで解放してくださいました。洗礼の水を通して、罪と死の縄目から私たちを解放し、聖霊によって私たちを自由へと導いてください。主イエス・キリストによって。アーメン

④イザヤ 55:1-11

祈祷

主なる神様。あなたの口からでる言葉は、あなたの望むことを成し遂げ、その使命を必ず果たします。あなたに信頼する者は幸いです。私たちに渴くことのない命の水を与え、復活の命に与かる者としてください。主イエス・キリストによって。アーメン

⑤エゼキエル 37:1-14

祈祷

永遠の神様。すべての教会を顧み、救いの計画を進めてください。あなたの聖霊の息吹で、倒れた人を起こし、古いものを新たにし、枯れはてた人々の思い

を豊かに潤し、キリストによってすべてが一つとなるように力をお与えください。主イエス・キリストによって。アーメン

## 5. 使徒書と福音書の朗読

ローマの信徒への手紙 6:3-11

マタイによる福音書 28:1-10

## 6. 小説教

(少人数での礼拝の場合は一人が代読、個人での祈りの場合は黙読してもよい。その後、沈黙や少人数での分かち合いを持つこともできる)

## 7. 主の祈り

(主の祈りを祈る前に、自分の言葉で祈ってもよい)

全) 天におられるわたしたちの父よ、  
み名が聖とされますように。  
み国が来ますように。  
みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。  
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。  
わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。  
わたしたちを誘惑に陥らせず、悪からお救いください。  
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。  
アーメン

(ローマ・カトリック教会／日本聖公会 共通口語訳、2000年)

## 8. 祝福と閉会

司) 全能の神、父と子と聖霊の祝福が、私(たち)と、離れたところにいる仲間たちと、すべての人の上にありますように。

会) アーメン。

## 小説教：

近年、もっと聖土曜日を大事にしようという動きがあります。この場合、聖土曜日は十字架と復活とに挟まれた、イエス・キリストが墓に葬られたこと、つまり、神不在の一日です。十字架をおぼえ、すぐに復活に向かうのではなく、神の不在という現実を目を向けようというわけです。

私が新卒で赴任して最初の礼拝は、聖金曜日の受苦日礼拝でした。三つの教会の兼牧だったため、その教会では土曜日を主日にイースターを祝うのですが、金曜日の夜に主の十字架での死をおぼえ、翌朝すぐに復活を祝うという体験は、やはり独特なものでした。さすがにここまで短く死から復活へと進む教会は稀でしょうが、確かに私たちは、聖週間の中で土曜日を、神の不在の一日を蔑ろにする傾向があるのかもしれませんが。さらに言えば、一週間に一度しか教会に集うことのできない人の多い現代にあっては、棕櫚の日曜日の次が主の復活を祝うイースターであり、十字架のない復活ということも起きてきます。そういったことを踏まえると、主の十字架での死をおぼえるだけでも素晴らしいではないかという声が聞こえてきそうです。このような現実の中、しかしなぜ、聖土曜日をおぼえようという主張がなされるのでしょうか。それは、今苦しみの中にいる人たちにとっては、聖土曜日こそが現実であるからです。その人たちの苦しみは、そこに復活の主どころか、十字架に架かるキリストさえも見出すことのできないほどであり、その現実を表現するには、神の不在以外は考えられません。なぜなら、事実、そのような苦しみを経験している人たちは、神なんかいないのだろう、いるはずがないとしか感じられないからです。

土曜日の日没に行われる「主の復活の夜」(イースターヴィジル)の礼拝は、そのような神の不在に苦しむ者たちによって守られてきたのかもしれませんが。人々はキリストの復活を今か今かと耐えながら、夜明けを待ちます。

そのように耐える人たちが、イエスが葬られた墓へと急ぎます。二人のマリアが墓を見に行くと、大きな地震が起き、天使たちが天から降り、墓を塞いでいた大石をわきへ転がしました。天使は女性たちに、十字架につけられたイエスはもうここにはいないと言うと、こう続けます。「さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。」

天使たちは、墓の入口を塞ぐ大石をわきに転がしました。それはしかし、そこに葬られていたイエスを外に出すためではありません。そうではなく、二人のマリアを死の象徴である墓へと招き入れ、主の復活の証し人とするためでした。それは言い換えれば、キリストがおられないとしか思えない現実、神の不在としか理解でき

ない現実こそが、復活の証左であるということです。マタイは、二人の MARIA と共に告白しています。私たちは、私たちの経験する神不在の現実を通して、神が今生きて、私たちのために働いておられる、私たちと出会われるということ知るので、そしてそのことをよい知らせとして告げ知らせるために遣わされているのだと宣言するのです。あなたが今経験する苦しみの中に、神は確かに働いておられます。アーメン。